



羽合小学校 学校通信

平成28年3月11日 NO.48

受け継ぐもの

東北地方を中心に大きな被害をもたらした東日本大震災が起きて5年が経とうとしています。5年前の今日、私は県庁の会議室で仕事をしていました。少しだけ揺れたかなと感じましたが特に仕事の手を止めることはありませんでした。しばらくして会議室に飛び込んで来られた方が「大変な事が起こっている」と言われるので、携帯電話のテレビを見てみると、まさに津波が青い松の防風林をなぎ倒しながら内陸に向けて進んでいる所でした。愕然としました。自分はここで仕事をしていて良いのだろうかとも思いました。

みなさんそれぞれがこの報に接して、またその後の経過に接して様々なことを感じ、考えられたことと思います。

地震、津波、それに続く原発事故により亡くなられた方は15,894人(H28,2,10現在)50万人の方々が避難を余儀なくされ、家族やふるさとを失うこととなりました。

命の重さ尊さ、日々続いている普通の生活が続いていくありがたさ、ふるさとの大切さ、わたしたちはこの災害を通じて心から感じ、考えました。

「がんばろう日本、がんばろう東北」を合い言葉に立ち上がる人々に心打たれ、勇気を与えられました。わたしたちも何かをしなければならないというのどの渇くような思いや行動も生まれました。

震災を通して、わたしたちが思い、考え、行動できるようになったことは災害を通してわたしたちが得たものです。しかし、震災の復興はなかなか進んでいないという報道を目にします。また、震災の記憶も風化しつつあると言われます。強く感じていたはずの命の重さ尊さ、家族や仲間の大切さ、日常の生活のありがたさが薄らいできています。こどもたちの日常の会話の中には「死ね」などという言葉も平気で出てきます。この言葉の重さが分かっていないのです。

震災復興に向けて、少なくともわたしたちがしなければならないのは震災を風化させてはならないということです。堤防が新たに築かれ、放射能の心配が無くなり、人々の暮らしがもとにもどってもなお、心に命の重さ尊さ、「絆」の大切さが脈々と受け継がれていかなければなりません。今日はその再確認の日でもあります。

【第4回 山上憶良短歌賞】 山上憶良短歌賞の今年のテーマは「家族」でした。

佳作 4年 足立 歩

「友だちのえがおをつくるケーキだよ 母のとくいはシフォンケーキ」

佳作 6年 赤崎 有咲

「家族みな 毎日毎日のぞいてる ワクワドキドキ新しい家」

家族の笑顔が目につかぶ歌ですね。おめでとうございます。 羽合小学校 寺谷英則